

わたしたちの人権

150

誰もが人間として生きていくうえで
 侵すことのできない当然の権利
 これが『人権』です

「山都町人権センター（旧隣保館）」の紹介 ～共に生きる地域社会をめざして～

人権センターは、1976（昭和51）年4月に「隣保館」として開設されました。その活動は、生活上の各種相談事業をはじめ、社会福祉等に関する総合的な事業、並びに国民的課題としての同和問題に対する理解を深めるための活動を行っています。

『身近な相談施設として』
 本センターが行う事業の中で、最も重要なものが「相談事業」です。生活環境、仕事や教育、社会福祉、保健衛生など住民の生活に関するあらゆる問い合わせや相談に応じています。「行政の総合的窓口」として位置づけられ、その役割を果たしてきました。

『地域福祉活動』
 保健相談や健康教室などの各種保健事業の他、定期的な巡回相談（介護関係）も本年より行っており、前述の相談事業と併せて当センターの果たすべき役割として進めています。また、年配の方を中心に地区内外から多くの人が集い、健康増進と交流の場にもなっています。このように、地域福祉活動の推進と発展に努めています。

住民の各世帯や個人がかかえる生活課題を把握し、その解決のために各種制度や行政施策を反映させ、相談事業を継続して行いながら、生活の向上を図っています。

を習得したいという願いから出発しました。自らの生活を見つめ直し、生活改善と変革をめざして、地域文化活動の推進や地区内の交流を深め、仲間づくりの場としての役割も担ってきました。



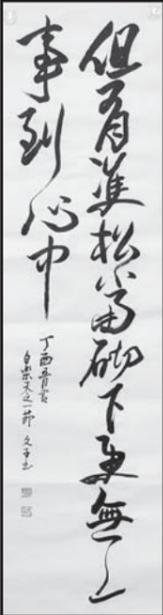
ふれあいサロンの様子



おたっしや会の様子（65歳以上の会）

書道

和光教室書道部



宮谷 文子さん（鶴ヶ田）作

季節のうた

馬見原酔山会

| | |
|-------------------------------|-------|
| 夕暮れの 虹にすつぽり 峡の町 | 高田 眞司 |
| 雷や 光も音も 真上にて | 大西久美子 |
| トラツクの 荷台が舞台 村祭り | 高田ゆかり |
| やまなみの会「山脈」 | |
| 青田風 吹き抜く部屋で 日記書く | 本田 七郎 |
| 願ひごと 見せ合ふ親子 星祭り | 岩村ヨシ子 |
| 冷房の 効いて静かな 寝息かな | 草樹 萌 |
| 心身の力抜けし しま過 守日々浄土の夫よ「どうしたらいい」 | 山下 弘子 |
| 木通蔓意のままに 曲げ編む籠は胸はずませてどの孫にやる | 木下スエオ |
| 治療終え 眼帯とればわが顔のしみ・しわ深きをしみみ見つむ | 今村 芳子 |

通潤句会

| | |
|-------------------------------|--------|
| 逆縁の 百日祭や ねむの花 | 西田えい子 |
| 釣人の 竿をたたみて 河鹿笛 | 田中 かつみ |
| 短か夜に 灯り放しの 仮設かな | 菅 清次郎 |
| 清和短歌会 | |
| からみつき藤咲く山の多ければ きれいきれいと言つてもおれぬ | 渡邊 民生 |
| 異国にて命果てたる兄の死は眠れる如く静かなりしと | 藤本 於蓮 |
| 散歩する足腰運動介護士と生きる喜び山をながめて | 渡辺 辰男 |

山都町の人口

〔平成 29 年 8 月 31 日現在〕

| | |
|----|---------------|
| 男 | 7,472人 (- 5) |
| 女 | 8,048人 (-18) |
| 計 | 15,520人 (-23) |
| 世帯 | 6,583戸 (- 5) |

※（ ）は前月比
 ※最高齢は 107 歳〔女性 1 人〕
 ※平成 29 年 8 月の出生者数 5 人
 ※平成 29 年 8 月の死亡者数 23 人

重要文化財「通潤橋」保存修理工事

通水管の漏水調査を実施、目地漆喰の詰替に着手へ



いよいよ通水管の修理に着手するため、通水試験を行い、漏水状況の調査を実施しました。第1回目の試験では、石管の継目からの漏水が約70箇所確認されました。通潤橋の通水管は、1列あたり200個を超える石管を繋ぎ合わせ、それぞれの継目の目地に「漆喰（しっくい）」を詰め、漏水を防ぐ構造となっています。昨年の熊本地震直後、また今回の試験により確認された漏水は、漆喰部分の損傷が原因と考えられます。漆喰は、通潤橋の建造に関する技術などを記した古文書「通潤橋仕法書」に記載される方法を踏襲し、赤土、白灰（現在は消石灰）、砂、塩、松葉汁（松葉を炊いた煮汁）を混ぜ合わせ製作されます。今後は、漏水箇所の目地漆喰の詰め替えを行い、通潤橋の通水機能の復旧を目指します。（※写真は、漆喰の製作中の様子）

編集後記

火伏地蔵祭と八朔祭、どちらも晴天に恵まれ、フィナーレの花火まで無事終了することができて本当に良かったと思います。「八朔祭は五穀豊穡を願うお祭り。雨乞いの意味も含まれるから、そういった意味では雨が降ることも成功のうち・・・」という話を以前聞いたことがあります。やはり晴れた方が楽しく、気持ちがいいなと思いました。三大祭ラストを飾る清和文楽の里まつりも晴れてくれるといいなと思います。今初めて携帯電話以外のカメラで、花火撮影に挑みました！イメージしていたような写真を撮るには研究と練習が必要そうですね（；；）
 冷たい秋風が吹きはじめました。昼夜で寒暖の差も出てきますので、風邪をひかれないようご注意ください。（坂本）